



情報編輯局

一月廿九日 第五百三十三號

週寫眞報

長瀬大佐が作った特輯號





中東土橋部隊



中華の新條約は既に結ばれた。これから、日本も新らしく、中国も新らしく、いや東亞全部が、新らしく生れかゝるのだ。
古い殻を脱ぎ捨て、眞一文字に永遠の平和建設に進軍する一群の人々を我々は興亞の戦士と名付ける。この群と立ち混り、女ながらも燃えるやうな希望に双時を舞かせ、治安の確保にいそむ女戦士こそは、戦士の中の戦士といへよう。古い封建的生活形態や、因循な傳統から美事に抜け出でて、雄々しく興亞の戦線に躍りだした彼女の行手には、なほ幾多の障礙が横はるであらうが内地のお嬢さん方も有閑令嬢などといふ有難くない尊稱はよろしく奉還して大いに頑張つて下さい。

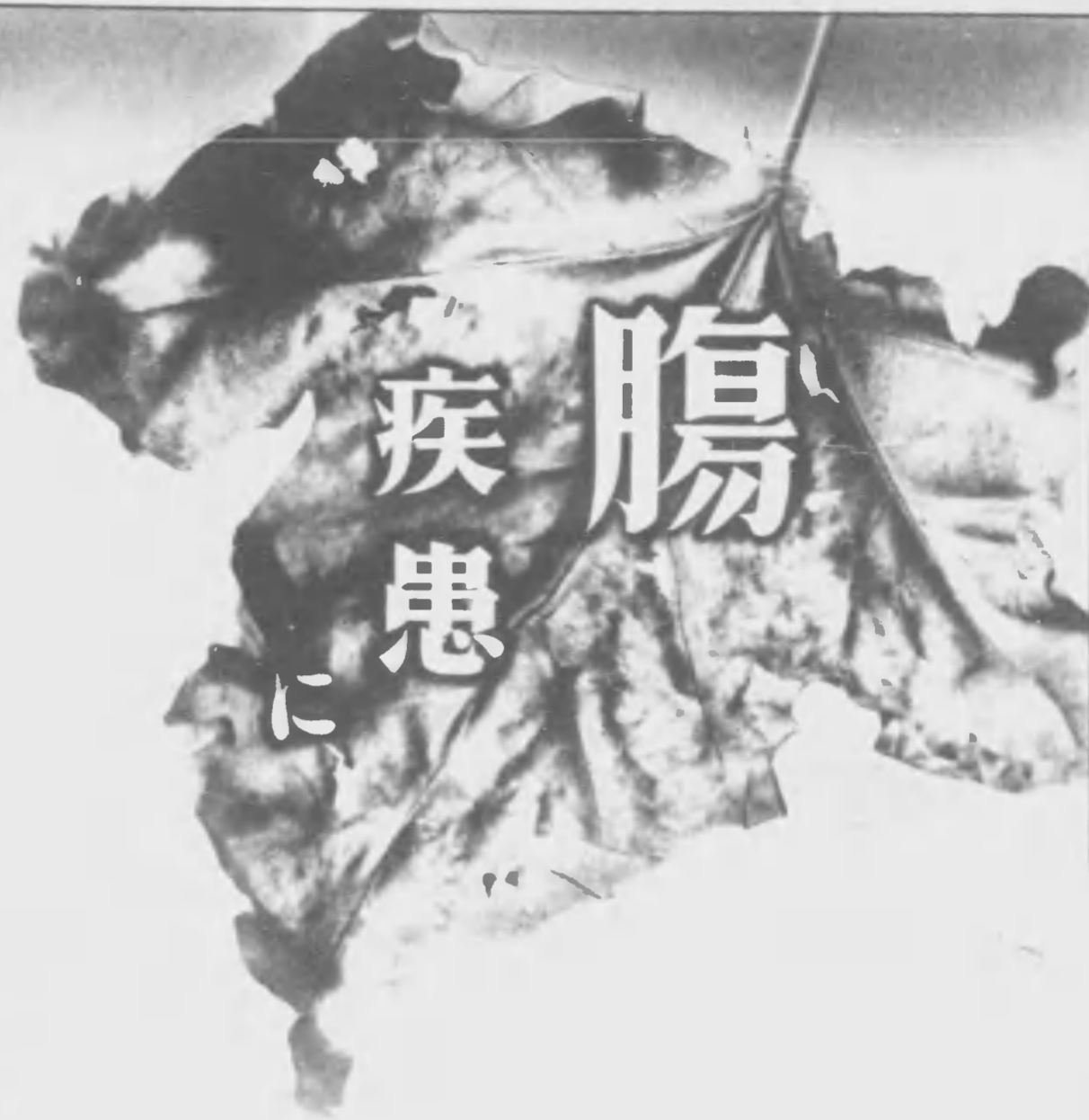
中文 町田部隊



すまれ入に覽御を士警女



武田製薬



ビオフェルミン

整腸・殺菌・消化作用を併有する乳酸菌療法剤！

ビオフェルミンは糖化菌を含有する強力乳酸菌製剤にして、腸内有害細菌を殺滅し、腐敗及び異常醗酵を防ぎ、腸機能を調整するほか、毒素の吸収を阻止し消化を促進するにより、腸疾患に對する安全にして合理的なる薬劑として重用せらる。

〔適應症〕腸カタル、下痢、消化不良、緑便、鼓腸、常習便秘、脚氣、小兒下痢、小兒の榮養障礙、動脈硬化と腎肝疾患、その他傳染性腸疾患（腸チフス、赤痢等）の豫防にも賞用せらる。日味美の製本と製劑 各地藥房にあり。

東京武田製薬株式会社 東京武田製薬株式会社 東京武田製薬株式会社
東京武田製薬株式会社 東京武田製薬株式会社 東京武田製薬株式会社

特輯に寄す

陸軍大臣 東條英機

聖戦第五年を迎へ、御成敗の下皇軍の武威は彌々輝かしく抗日敵軍の困窮は日に加はりつつあることは御同慶に堪へぬ次第である。しかしながら東亞新秩序建設の大業は、一朝一夕に達成し得べきものでなく、一億同胞の勇往邁進が今後益々切望せられる次第である。

由來戦争が長期持久戦化すれば人情の常として、動もすると精神の緊張を缺き、これがために折角今までに獲得した赫赫たる戦果を最後の段階において放棄し、自ら敗戦を招くに至ることは古來幾多の歴史が証明するところである。戦線においては血みどろの戦ひを続けてゐるのに、銃後においては平和を望んでゐるといふやうな前線銃後の連結の緊密ならざる雰囲気があつたのである。しかもこのやうな前線銃後の間隙は通常直接戦禍を體驗しない銃後國民の側から精神の弛緩を來し、これが前線に反映するといふ経路を辿り易いものである。そこでこの精神力の弛緩を防ぐのみならず更にこれを強化して前線と銃後とが一體となりその間隙の隙もないことが勝利のための不可欠の條件でなければならぬ。

今次の支那事變においてこのやうな結果へ導く如き事情がないことは勿論である。しかし何分にも前線と母國とは相等距離してゐる關係上直接出征將兵を送つてゐる家庭以外においては、動もすると張りつめた感情の薄らぐ恐れがないでもない。

第一線將兵活動力の源泉は申すまでもなく銃後の力であり、銃後の後援力である。而してこの銃後の後援力は、第一線將兵の苦勞をわが心とすることによつて自ら湧き上つてくるものである。陣中の生活は絶えず死線を迎へ絶えずこれを克服してゆく氣魄と決意に貫かれてゐる。そこには身も魂もすべてを投げだして、ただ一すぢに邦家のために盡さんとする尊い没我の生活體驗が行はれてゐる。この生活體驗に溢れ湧く前線將兵の赤誠こそ、まさしく銃後にある我々の修養の資であり、實踐の指針であり、偉大なる教訓でなければならぬ。

一面、前線にある將兵は異郷の地にあつて如何に銃後の生活振りに留意してゐるかも考へなければならぬ。例へば前線將兵の中には、内地の事情を誇大に傳へた漫畫等を見て、「國內は物資が缺乏してマツチまでこんなになつたのか」と心配してゐる者があると聞くが、これらは前線が銃後の實情に接し得ないところ、無用の心配をさせてゐる一つの例である。勿論大戦争を遂行してゐる以上國內の日常生活が平和の時と全く同様であることは考へられない。戦時には戦争遂行を容易ならしめるやうに態勢を變へなければならぬ。従つて幾多の困難はあらうが、戦線の將兵が不眠不休あらゆる困苦缺乏に耐へて御奉公してゐることに比較すれば、まことに勿體ないといはざるを得ない位である。

尙戰場の南北を問はず困苦缺乏に堪へ、寡兵よく衆敵を對手として奮闘せられつゝある前線の諸君に對しては銃後の國民はたゞ一すぢに感謝を捧げてゐる。この感謝の念は「兵隊さんの勞苦を思へば」といふ戦時生活の眞剣な態度となり、「兵隊さんに勝つてもらふために」と新らしい日本の建て直しに容易ならざる努力を傾けてゐる。銃後のかゝる忍苦と努力は必ずや前線諸君の背後に力強い後押しとなつて輝かしい勝利を獲得せしめる力となるであらうと信ずる。戦ひに勝つためには前線と銃後は渾然一體たるべきものであり、苟も互ひに離るゝところがあつてはならない。銃後の國民がよく前線諸君の勞苦を忘れざると同時に、前線の諸君もどうか銃後に對する不安は一掃し、十二分に銃後を信頼して、一死報國の誠をつくしていただきたい。前線には何一つ心配をかけないやうにしようといふ氣持が銃後のすべての國民に溢れてゐるのである。諸君がこの赤情に應へて國防の第一線を確保することを期待すると共に、益々諸君がこの武運長久を祈つてやまない。茲に第一線部隊將兵から情報局に送られた各種の作品を以て特輯を刊行せられるに當り一言所見を述べた次第である。



雲の哨歩線
鐵條網に樹氷さく海抜一八〇〇米の山上に紀元二千六百年の元旦を迎ふ
雲に映え雪に輝く初日を仰ぐと、氣自から新たに警戒また備を迎ふ
北支 上田部隊 前田 實

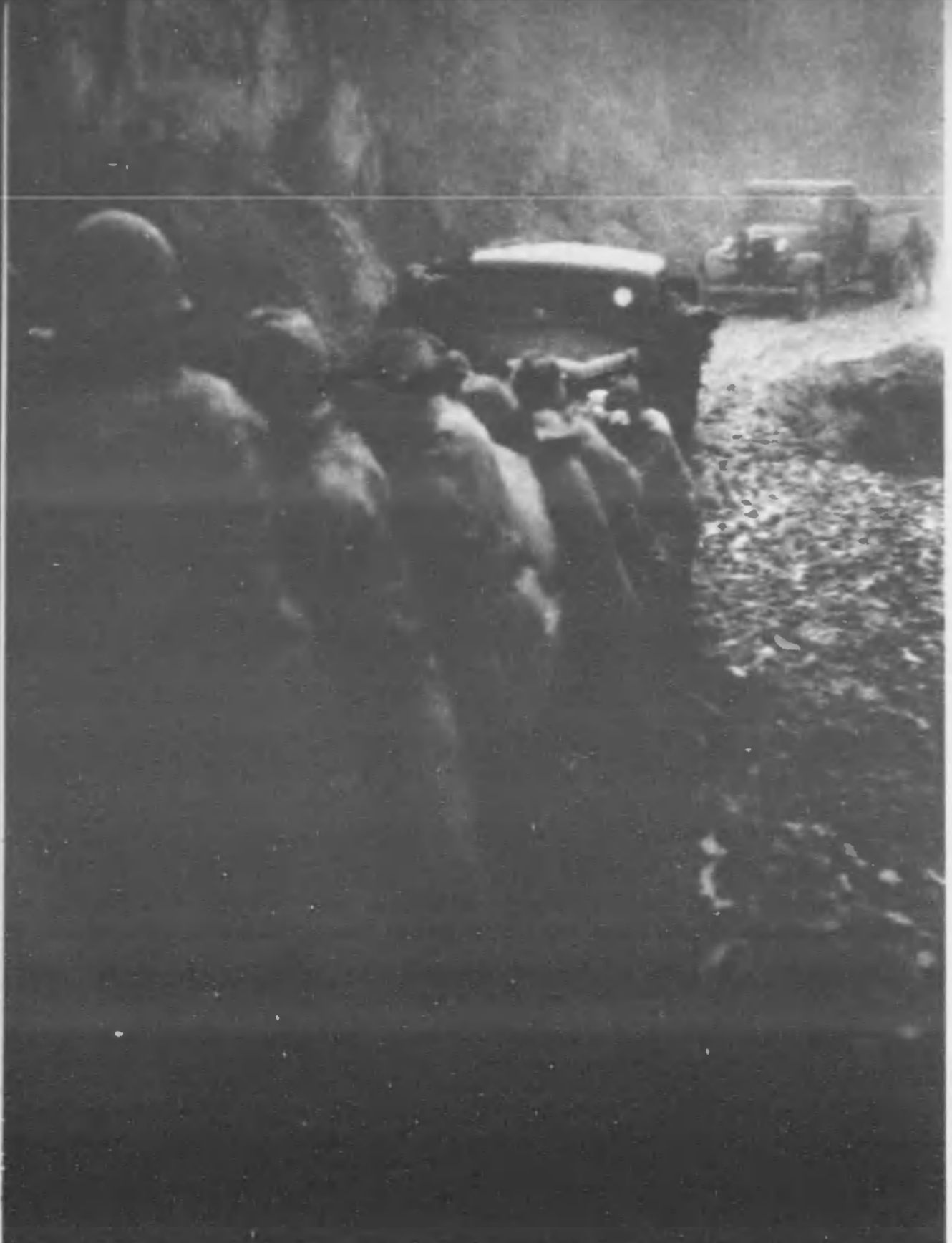
★敵前渡河
機關をついて支軍機は突如爆撃に火蓋を切つた。互砲の激射射撃もまた激烈をきはめる。對岸の敵陣はもう砲火に包まれてしまつた。しかし間歇的に飛んで來る敵の迫撃砲はまだ「正確な照準で渡河點に炸裂してゐる。その間隙を縫つて、各個躍進で渡河する歩兵隊、その一人々々の運命たる勇姿が、今でも眼にちらつく。北支 町民部隊 陸軍上等兵 是永伸(一繪)



果なき曠野に 血と汗と

連日の雨に、道といふ道は泥海の底に没してしまつた。南昌へ！南昌へ！わが部隊は膝を没する泥濘を物ともせず進撃を続ける
中支 富田部隊

昭和十五年六月、江西省湖口東南方約六料郵陽湖畔蘇現渡に連撃した時、橋梁は殆んど、敵が退却の際焼却してゐた。進撃が急で材料の到着を待つてゐられない。早速應用材料を使つたが、この時の敵前架橋は今でも部隊の想ひ出の一つになつてゐる
中支 米代部隊



山西省の山の中では、十月の雨はもう痛い程冷い。
『一、二、三、ヨイショ』
『一、二、三、ヨイショ』
『もう一息だ、がんばらうぜ』
深身の力に重んた足を容赦なく雨が叩く。この日も食もなく、泥濘と敵のゲリラ戦と闘ひながら、目的地に着いたのは夜中だつた。昭和十五年十月二日山西省離石縣〇〇峰標高三〇〇〇米附近
北支 建築部隊 陸軍軍醫少尉 田中慎一

山また山の連続だ。一歩進む毎にまめだらけの足が針でつくやうに痛い。五分間休憩。
『あゝ羊羹か喰ひたいな。俺はせんさいだ。』戦友の話をちらりと耳にする。空腹と甘い物に對する飢餓でたまらなくなる。この日だつた。〇〇部隊の友軍機が『地上部隊の連日の御健闘を謝す』の言葉と共に、羊羹、パイ、乾パン、菓子の一杯つまつた慰問袋を届けてくれたのは、兵隊たちは涙にうるんだ眼で何時までも去り行く機影を見詰めてゐた。
北支 田中部隊 前田 貞

硝煙の香がきつくと鼻をつく。四方は見えない。霞のように。うめく聲がする。私は立ち上つた。顔をなでた。責任一つない。手さぐりで靴をなでると、べつりと糸が剥がれる。手にふれた。血に染つた肉片が手にふた。血に染つた肉片が手にふた。血に染つた肉片が手にふた。...

陣中作品について

上田 廣

今は秋風となつて世にない曾ての私に語りかけよう。この陣中生活の思い出。この陣中生活の思い出。この陣中生活の思い出。この陣中生活の思い出。...



た。暑い炎天下の行軍に泥水を飲んでゐると。おいしく飲んではいけないぞ。といはれた。たつたそれだけの言葉だが、そのいたはりの言葉がすくなく胸にこたへる。...

ふた丘や野。演習にゆきかへりした。新しい息を吐き出して。この新しい習慣地へと向ふ。十一名の遺骨は引越の箱に包んで保管を託した。兵舎がと。...

沈む 秋風にこよよ無技巧な職野の友情。だがこの何の言葉も進化も見えない。無技巧な職野に大陸の果に、新しい建設をするために日本は今戦はぬい。...

夕暮 心身は身にとどめ 心を片手にしてゐる。沈む。秋風にこよよ無技巧な職野の友情。だがこの何の言葉も進化も見えない。...

故郷征つ日のあさの熱情が、波のやうに揺れてゐた日の丸や歓聲と共に何時か雪ふる坂出港が、私の胸に熱くもえ上つてくるのであった。...

に遺骨を抱きしめて歩いた... 分隊長殿、この湖北の野に何時までも輝かしい祖國を護つて下さい。この建設を育てて下さい。...



紙風船

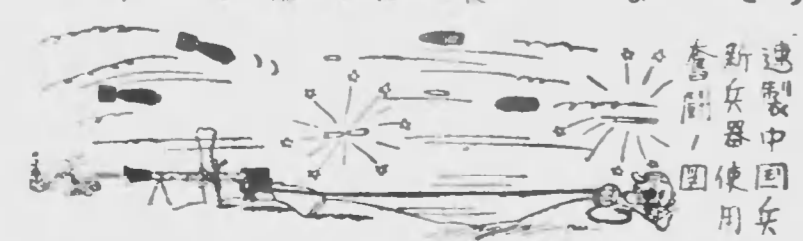
紙風船の紙風船 少女ころの紅襟帳 月夜の雪を撫でながら 手にまみれ手に載せる

心身は身にとどめ 心を片手にしてゐる。沈む。秋風にこよよ無技巧な職野の友情。だがこの何の言葉も進化も見えない。...

夕暮 心身は身にとどめ 心を片手にしてゐる。沈む。秋風にこよよ無技巧な職野の友情。だがこの何の言葉も進化も見えない。...

故郷征つ日のあさの熱情が、波のやうに揺れてゐた日の丸や歓聲と共に何時か雪ふる坂出港が、私の胸に熱くもえ上つてくるのであった。...

に遺骨を抱きしめて歩いた... 分隊長殿、この湖北の野に何時までも輝かしい祖國を護つて下さい。この建設を育てて下さい。...



銃後に心懸

故國からの音信にかうした心遣ひを

最後線を通じた東日本の報に、内地はさうの如く経済難を覚して居るのかと、おぼろしく思ふところ、御安心下さい。日本は、何れも千戦千闘を繰り返して居るうちに、私達が、一歩も前進して居るものと、思ふべきであります。

この戦中、何れも千戦千闘を繰り返して居るうちに、私達が、一歩も前進して居るものと、思ふべきであります。



北支那の風景

最後線を通じた東日本の報に、内地はさうの如く経済難を覚して居るのかと、おぼろしく思ふところ、御安心下さい。日本は、何れも千戦千闘を繰り返して居るうちに、私達が、一歩も前進して居るものと、思ふべきであります。

この戦中、何れも千戦千闘を繰り返して居るうちに、私達が、一歩も前進して居るものと、思ふべきであります。

皆様自分達とつと親しんで下さい

戦線より、皆様自分達とつと親しんで下さい。戦線より、皆様自分達とつと親しんで下さい。

戦線より、皆様自分達とつと親しんで下さい。戦線より、皆様自分達とつと親しんで下さい。

下駄も・炭も・現地の自給自足ぶり

自給自足の目的は、戦線への物資供給のためです。現地の自給自足ぶりを紹介します。

自給自足の目的は、戦線への物資供給のためです。現地の自給自足ぶりを紹介します。



支那を救ひ日本に寄與する力となれ

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

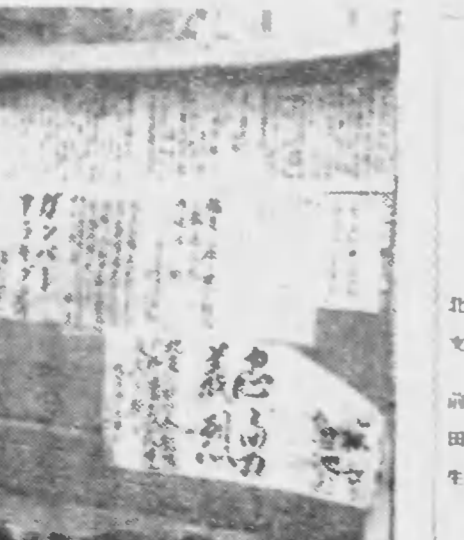
支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。

支那を救ひ日本に寄與する力となれ。支那を救ひ日本に寄與する力となれ。



北支の風景

支那農民に學ぶ

私は支那の農村を歩き回って、支那の農民に學ぶことにした。支那の農村は、日本の農村と比べて、非常に古く、そして、非常に豊かである。支那の農民は、長い歴史の中で、多くの経験と知恵を蓄えている。彼らの生活様式、耕作方法、肥料の使い方など、すべてが、日本の農民にとって、多くの教訓を与えている。

支那の農民は、非常に勤勉である。彼らは、朝早く起きて、夕方遅くまで働く。彼らは、土地を大切に育て、収穫を待つ。彼らは、自然の恵みに感謝し、神に祈りを捧げる。彼らの生活は、非常に質素である。彼らは、粗末な衣服を着、粗末な食料を食べる。しかし、彼らの心は、非常に豊かである。彼らは、家族を大切に愛し、村人を大切に愛する。彼らの生活は、非常に平和である。彼らは、争いを好まず、平和を愛する。

支那の農民は、非常に忍耐強い。彼らは、天候の不作に耐え、病気や害虫に耐える。彼らは、困難な状況でも、決して諦めず、最後まで頑張る。彼らの精神は、非常に強固である。彼らは、困難を乗り越え、希望を失わず、前を向く。彼らの生活は、非常に苦しい。しかし、彼らは、苦しみを通して、成長を遂げる。彼らの生活は、非常に有意義である。彼らは、自分の力で、生活を立て、未来を築く。

我々の屯田も、支那の農村の大部分を占める。支那の農村は、非常に古く、そして、非常に豊かである。支那の農民は、長い歴史の中で、多くの経験と知恵を蓄えている。彼らの生活様式、耕作方法、肥料の使い方など、すべてが、日本の農民にとって、多くの教訓を与えている。

支那の農民は、非常に勤勉である。彼らは、朝早く起きて、夕方遅くまで働く。彼らは、土地を大切に育て、収穫を待つ。彼らは、自然の恵みに感謝し、神に祈りを捧げる。彼らの生活は、非常に質素である。彼らは、粗末な衣服を着、粗末な食料を食べる。しかし、彼らの心は、非常に豊かである。彼らは、家族を大切に愛し、村人を大切に愛する。彼らの生活は、非常に平和である。彼らは、争いを好まず、平和を愛する。

支那の農民は、非常に忍耐強い。彼らは、天候の不作に耐え、病気や害虫に耐える。彼らは、困難な状況でも、決して諦めず、最後まで頑張る。彼らの精神は、非常に強固である。彼らは、困難を乗り越え、希望を失わず、前を向く。彼らの生活は、非常に苦しい。しかし、彼らは、苦しみを通して、成長を遂げる。彼らの生活は、非常に有意義である。彼らは、自分の力で、生活を立て、未来を築く。



支那の農村風景

支那の農民は、非常に勤勉である。彼らは、朝早く起きて、夕方遅くまで働く。彼らは、土地を大切に育て、収穫を待つ。彼らは、自然の恵みに感謝し、神に祈りを捧げる。彼らの生活は、非常に質素である。彼らは、粗末な衣服を着、粗末な食料を食べる。しかし、彼らの心は、非常に豊かである。彼らは、家族を大切に愛し、村人を大切に愛する。彼らの生活は、非常に平和である。彼らは、争いを好まず、平和を愛する。

支那の農民は、非常に忍耐強い。彼らは、天候の不作に耐え、病気や害虫に耐える。彼らは、困難な状況でも、決して諦めず、最後まで頑張る。彼らの精神は、非常に強固である。彼らは、困難を乗り越え、希望を失わず、前を向く。彼らの生活は、非常に苦しい。しかし、彼らは、苦しみを通して、成長を遂げる。彼らの生活は、非常に有意義である。彼らは、自分の力で、生活を立て、未来を築く。

銃後に慰問

五、我々の町にも、慰問袋が来たぞ！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！

戦塵集

中支 河野野郎 三浦 嘉郎
 中支 中村野郎 西原 芳郎
 中支 伊東野郎 朝野 一
 中支 小川野郎 長須 四郎
 中支 中村野郎 大澤 野之介
 中支 河野野郎 三浦 嘉郎
 中支 中村野郎 西原 芳郎
 中支 伊東野郎 朝野 一
 中支 小川野郎 長須 四郎
 中支 中村野郎 大澤 野之介

若い娘さんから も来ようものなら

若い娘さんから、も来ようものなら。これは、戦時下の支那農村を写した一枚の貴重な写真である。写真には、若い女性が、何かを手に持ち、歩いている様子が写っている。彼女の表情は、少し憂鬱げであるが、同時に、希望も感じられる。背景には、田舎の風景が広がっている。この写真は、戦時下の支那農村の生活様式や、人々の心情を、よく表している。

お返事は書きます どしどし使いを！

お返事は書きます、どしどし使いを！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！
 慰問袋が来たぞ！
 オイ、みんな喜べ！



野戦 想隨



大友 又橋 一月 香 中 野

野戦の想隨 大友又橋 一月 香 中 野

大友又橋の野戦の想隨 一月 香 中 野

短歌

涙の価値

利権のやうな上流の者が中々に...

手紙を書きながら...

吸ひさしのタバコを左手に...

「まだあの時泣かなかつた奴はよほどどうかして...

力となつてめいめいの身體を打ち打つて...

いり来る

「あの時小隊長が言はれた言葉...

空は青々と晴れ渡つて...

「家族の者は誰を振り、叫んで...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...

「おれは、この戦場の真ん中に...

「何であつたらうか...

「せめてさういふ振ること出来たら...

「我が行進曲が出征兵士を送る...

「夜も更け戦友達の寝息が静かに...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...

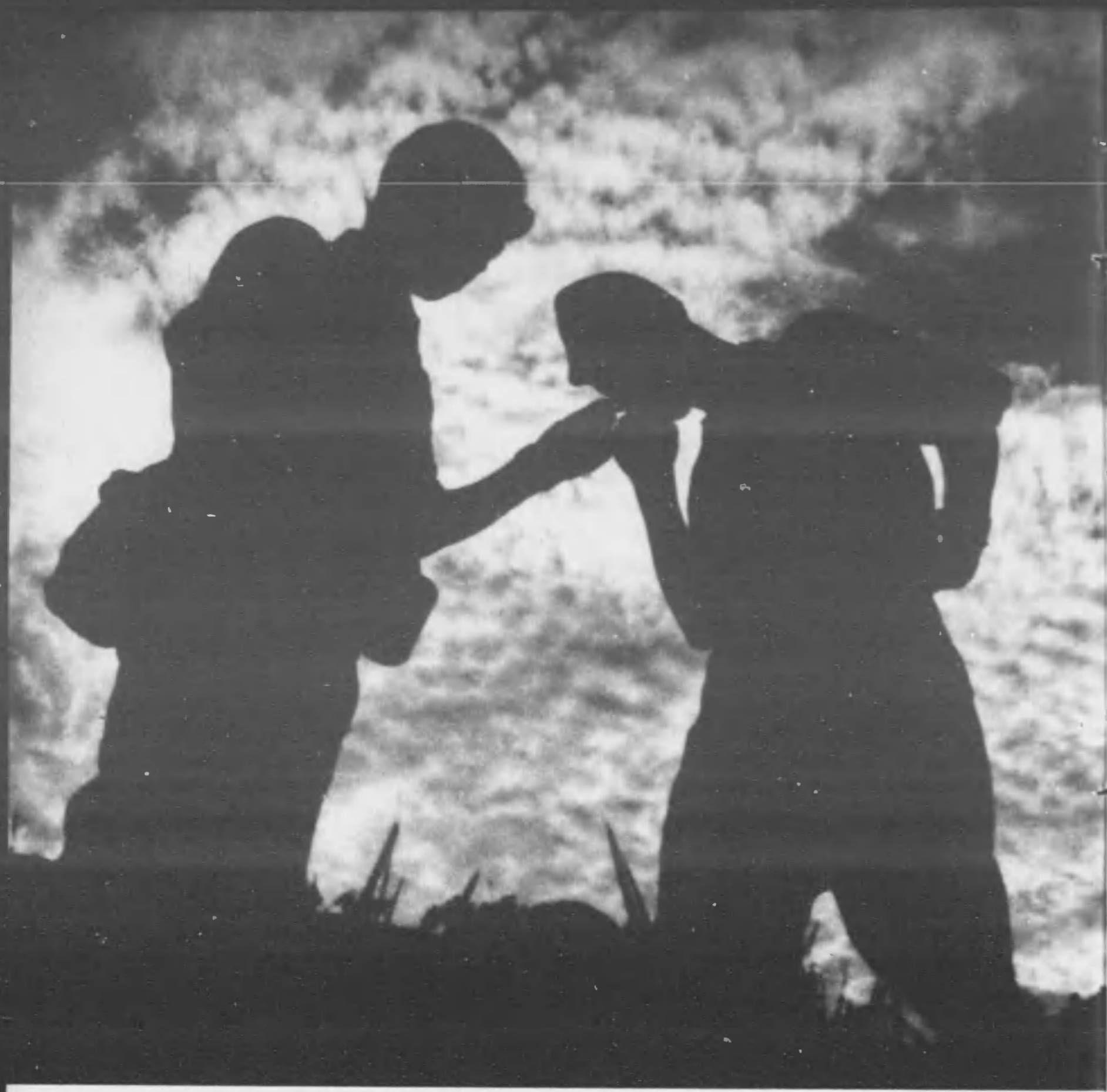
「あんな見送人とは決して手を振つたり...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...

「あんな見送人とは決して手を振つたり...



☆ 前線柳

北支 馬場 林 謙一

立派なる戦長龍とやら

武者の目撃千人も日ならず

戦線に東前の下つく風味

小隊も各隊ですと林謙一

向かいと行くでかろ見る支那群衆

味方兵士でわが方を愛する

古蹟地帯に...

清兵は捕獲した...

兵隊は...

沈黙の戦場の...

水筒を渡した...

兵隊は...

少女のサービス...

浪花節月を仰いで...

一和と...

寫眞機も武器

情報局情報官 林 謙一

支那事變頭初、上海に飛び火をした頃、上海駐在のイタリヤ武官が筆者に、いかにも不思議さうな顔をして「君、日本陸軍の装備は立派なものだ。何か特別な小型新兵器を持つてゐるのかと思つたら寫眞機だつた。實に驚嘆に値する」と述べたものだつた。そのやうに日本の兵隊さんは寫眞がお好きだ。本特科にみられるやうに、實に立派な寫眞を撮つてゐる兵隊さんが澤山にゐる。將校斥候について行つて、クリークの渡河點、敵のトーチカ、地上掩蔽物等をつぶさに撮影し、これを持ち歸つて聯隊本部で現像焼付をして、「生きた報告書」を提出してゐる兵もゐる。

警備の餘暇に戰友の元氣な姿を撮影し、戦後の奥さんに「あなたの部隊の寫眞係の方にもこのお羊羹をお裾分けして下さい」と表彰された器用な兵もゐる。

大場鎮攻略の時、彼等の戦線が膠着したまゝしばらく動かなくなつたことがある。或る日、二羽の鴉を相手にさけて「フー」と我が陣地に迷ひ込んで来た支那兵があつた。早速引捕へて訊問を始めた。この時始めて日本軍へ迷ひ込んだことに氣付いたこの支那兵は、驚く程強つた體、急にふるへ出して、何としても口を開かない。通譯ももてあましてきた。その時、この姿が如何にも滑稽なので、茶目な一兵士が、愛用のカメラを持ち出して、「一寸さつて一枚撮らしてくれ」と前へ飛び出してカメラを脅威に構へた。ところが、この支那兵はカメラを何と感嘆したのか、急に大聲を擧げて泣き出し、土下座して二羽の鴉を揉み合はせるやうにして拜みながら「命だけは助けてくれ、私は第八十七師に屬する何某と申す者で...」と逐一敵状を白し及んだものだ。圓む一兵士は腹をかへて笑ひ轉けた。まこと、イタリヤ武官が寫眞機を兵器とみたるの無理はない。

【A-5-1】煙草の感觸の懐かしさ。深く吸ひ込んで細くふつとはく。地をふやうに葉のけむりは流れて。行軍小休止の夕暮れ、今日も生きてゐた感慨がしんくんと深い。

中支 三軒部隊 陸軍少尉 近藤 泰蔵

手帳城に入城した時は、例によつて人影が無く取残された...



中支 大津(豊)部隊 小野 昇

本陣これがいちの細い... 四十何日よりか... 水に浸る...



汗と埃にまみれて敵陣を突破して来た自分たちの部隊に...



戦線にもお正月が訪れる。戦仕立の袴と白を揃へると兵隊...



中支 三好部隊 近

戦地に來て始めてパリックンを持つた後、パリックンと気が...



燈々と降り注ぐ初夏の陽光を身に浴びて洗濯に専心して...



汗と埃にまみれて敵陣を突破して来た自分たちの部隊に...



戦線の夜が少しも水もなくなると、兵隊たちは戦線の餘...



中支 水戸部隊 森 彦夫

戦線日記から

中支 大津(豊)部隊 小野 昇

☆ 小春日和の減る日の晝さがり... とあるクレークのはとりで、兵隊達は歌を唄つたり、笑ひ話をしつたり、種々ベシヤツキを袴下(ズボン下)をせつせと洗つてゐる。クレークの水で飯盒炊爨をしてゐる者。ブーンといひうひがして来て、空腹に沁み透る。枯草に胡坐をかいて、無骨な手をきこちなく操り乍ら『いま内地も恰度葡萄の食べ頃だらうな』とか、おアチ粉を一杯食べてえな〜とか、たあいも無い話をして、飽きおこつてゐる者。『お針も洗濯も出来て、おまけに飯も上手に炊けたらもう女房はいらんよ』誰かの混つ返へしに、どつと笑ひが起る。☆ 『は〜こいつア褒げえ』と鼻をクタンクタン鳴らして、隣りの班の戦友が返す。『俺にも一つ御馳走しろよ』。勿體ねえがまた一つ喰べろ。うん、こいつは美味い。アスクス笑ひが起る。お代りだ。『じゃそれもう一つ...』どつと割れ返るやうな爆笑。その兵隊は何が何やらさつぱり解らず、キョトンと乍ら一瞬に笑つてゐる。それが更に面白いと言ふので、腹を抱へ、涙を流して笑ひ、足を踏み踏らし、手を叩いて遊ばせてゐる。大のウツを喰はされたのである。

☆ ☆ 此頃さつぱり酒が手に入らなくなつた。銃後内地の酒を思へば何んでもないが、矢張り淋しい。



☆ 炭焼く兵隊 戦線に餘暇が出来ても兵隊たちはじつとしてな... 何時進軍するか分らない駐留地なのに朝の早い連中は、閑静な冬を控へて飯房用の炭を焼きはじめた。炭と兵隊、愛を造り、木を伐り、笑ひさうめきなから炭を焼いてゐる兵隊たちの口から流れるこんな言葉に微笑ましくなる。中支 水戸部隊 陸軍一等兵 前田(金利) 陸

そこで駐屯兵隊は、支那酒を買つて来る。だが、この支那酒は、その儲けでどうにも載きかねる。むかつく様なアルコールの匂ひがアんと来る。汚いほど濁つてゐる。ビリティと舌に刺さる。それが無い。

それでもつひまた買つて来て、サイダーの空瓶でお燗をつける。酒は矢張りよろしい。呑む程に嬉しい内地をこそぞるに備へ、奮闘苦悶の自慢話を話かきおきまの軍歌、知つてゐるだけの流行歌を應答して一廻り唄ひ終ると、隠し蔵や、身振り手振りも面白く踊り出してしまう。

かうして私達は冬の寒さと戦ひの戦を忘れ、紀元二千六百年祝典の標語ではないけれど『祝へ元氣に朗かに、祝ひ終れば、戦はら』と明日の戦ひの英氣を養ふのである。

☆ 見事な大根や 中支 三好部隊 近

現地生活にすっかり慣れた自分たちは、現地で自活し戦線に明け暮れることが出来るやうになつた。當地は無畏に横い平原で、四季折々の野菜が出現し、民家では大根畑を飼つてゐる。そこで部隊でも九月以來自給自足の計画を立て、自營農場と菜園を初めた。現在では成株三十頭、仔豚五十頭、計産者による、昭和十六年一月からは、われわれの菜園も何等内地に足りない補給されることとなつた。中支 水戸部隊 陸軍一等兵 前田(金利) 陸



警備も楽しい

中支 水戸部隊 陸軍少尉 森 彦夫

故郷の

便り



軍事郵便は第一線の将兵と後方とを繋ぐ唯一の有形的なたよりである。『来たぞ』といふ喜びの叫びを上げて集つてくる隊友の顔を思いながら、サンタクロースの旗を掲げ、手紙や新聞紙で賑わした。『来たぞ』といふ喜びの叫びを上げて集つてくる隊友の顔を思いながら、サンタクロースの旗を掲げ、手紙や新聞紙で賑わした。

便りと兵隊



『便り』こんな便利で楽しみのものはない。父母の安否を知るのも亦自分の近況を知らせる事の出来るのもみんな喜ばれた。遠く懐しい大和を離れ立つた我々軍人が、故郷の便り程待ちこがれるものはない。○月○日憲報の志に燃えた我々の駐屯地○を出発し行軍につく。夜を日についた行軍は人費前エースや新聞雑誌を見たり加はだ。自分がこの厳しい行軍序列の一員に加はつてゐるかと思ふと勝つて来るぞと一節うなりたくなる。月は慰安の光と、月夜の討陣行は一段の味がある。ほんやり浮ぶ落影、支那獨特の上マンチウがメイツと曠野に頭を出す。月見れば千々にもこそ悲しけれ我が身一つの秋にはあれど、歌人が月夜に終夜筆もつて首をかけたのも無理はない我々一兵でも『名月』と出さうと。『オイ内地でも見てゐるならなあ』と某一等兵の眼には夜陰に露の光るのを見る。彼も

このうれしうな表情をよくご覧下さい。坊やお菓子を貰つたときのうれしさうな表情とどこの違ふでせう。南支 山口(甲)部隊 北支 大井川部隊 笠原武雄



故郷の両親に對して立派な手紙を立てます。と困い心に一段と拍車つけられてゐるのだ。このやうな我々に書翰が来たといはれる時のうれしさは筆述しがたい。我々新兵グループでは内地からの便りを故郷の家と稱してゐる若い婦人女學生からの手紙は朝鮮人妻、親の意見はセンブリといふ。朝鮮人妻とは高貴で一才得難く、センブリとは顔をしかめるかららしい。『昨日たつたか、オイ書翰が来たぞ』と戦友インクロー二等兵、三浦三崎産で人並以上厚いからいつたインクロー。夕食もそこそこ事務室へ飛ぶ。事務室といつても名ばかり十何年も使用したと思はれる古い机が、七や八のみな。人口の厚さを聞いてん。『来たぞ』と涙を流した。我々の大きな聲だ。十五度の敬礼をして頭を上げる。朝鮮人の兵曹長の前にはもう十二、三名列をなしてゐる。彼等も飯を吞んで来たのだらう。『来たぞ』と叫ぶ。背と一喝、早く差出人の名を知り度く誰か、背



この日は、暗から針聲が途絶えて戦線は不思議なほど静かだつた。北支では九月に入ると日差しはぐつと弱くなる。徹夜の警戒から解き放たれた兵隊たちは頬張るなかで思ひ／＼に寝れ切つた身體を休めた。と、何處まで直したか知れない故郷からの便りを、またむさばるやうに読んでゐる兵隊の姿が目についた。カマラを向けたが、聲をかけるには思ひなかつた。北支 大井川部隊 笠原武雄

のびしたのだらう。『我がて自分の番だ』どうか朝鮮人妻であれかし』と頼つた甲斐があつた。桃色の封筒だ。御奇特な人ほどなだてあらうと裏を見る。ロソクノ光に浮き上る女文字、幼友達のA子さん。封をきつて喉入る様に目をそぐ。誰からだ』と鬼より恐い。『ナ』女學生、年は何はん、メンコイ



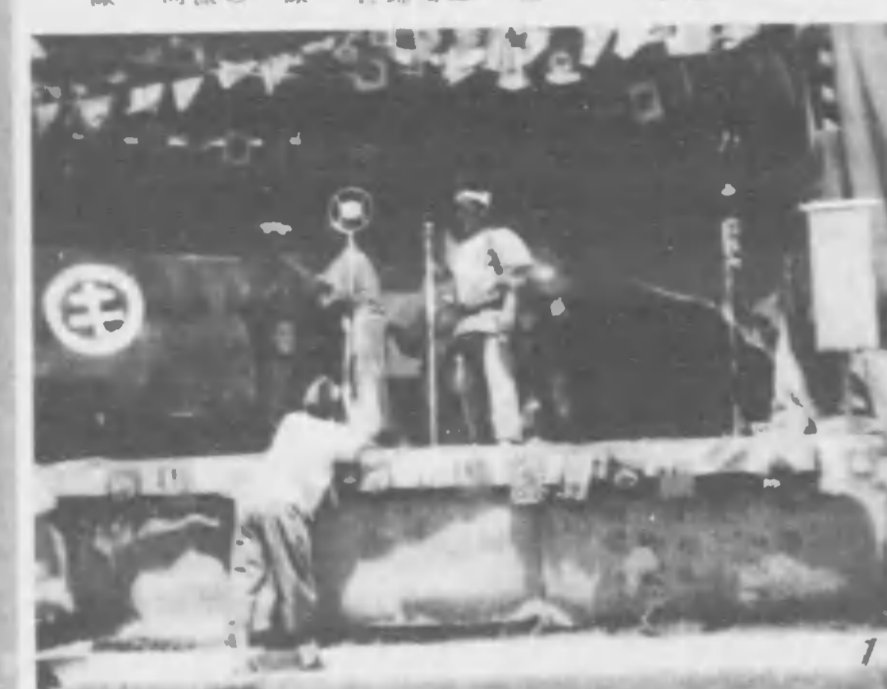
た。手紙の来ない者程可愛想な事はない。『オイ、すまんが見たら見せて呉れんか』と人の手紙で氣持を紛らすの青な連中もある。物價騰貴の折柄とはいへ四錢でこんなに元氣になるかと思ふと滋養強壯剤などは高すぎ。明日は来る様にと祈りつゝ、兵士は内地のポストは

兵隊の便り

1 部隊にはあらゆる人材が集つてゐる。けふはわが部隊創立記念日だ。俄か仕込みどころか専門家の演奏、一般人も部隊に兵隊は堪える。

2 部隊の駐屯地で郷土からの慰問演劇隊を迎へた喜びは故郷に歸つたやうな気がする。踊り、伴舞にわが國の香りが鼻をつく。高知縣慰問隊

3 われ／＼の感情を和けるものは慰問演劇である。武昌に派遣された陸軍音楽隊の慰問演劇





チツクス 『俗風支南』
— 根美 隊部東伊 支南



隊保井櫻 隊部東伊 支中 櫻の岸江
らかこは春—櫻く咲に岸江子揚の界租木日口淡

のら分自
ムバルア
らか



武 澤中 隊部桐片 支北 寺おの古巖
寺覺光の聖白の臨瀛朝るあに中山のロキ五十四約北東の頭包



三富本橋 長官軍隊 隊部松藤 支北 塔古るな聖
鏡銅晋地天別しび結を夢に築魔が山鋸置はてつか
つ待を来軍皇てしと然駭に空塞のこは塔瀛朝の



チツクス てに路北民漢 『場市人那支』
夫 英 漆 隊部藤近 支南



三藤田池 隊部部岡 支中 景風村農の那支
た稚幼もにり餘は耕農の民済土しかし土沃たしと々廣
ふ思とらため込り送を民農を秀優の地内本日も時何



部本隊部(文)田永 支北 り賣水の支北
少に常非は水い良く悪が水ろことるたいは那支
現出の資命珍ふいとり賣水の質良でこそいな



夫信林小 樹中軍陸 隊部隊大 支北 撫宣づま
もき若もい老たへ傳を意真の軍皇てめ集を民良速早
るみてけ傾を耳に壁の序秩新



るみてえ汗く寄入一 月の印佛 月るゝかに子種
— 金 橋 大 隊部江蘭小 印佛



名芳川陸 隊部海東 支南 期明の東廣
國中! 吾東廣そこ一タスボの國救蔭倒たい意が等彼



一渡林小 隊部武百 支南 傳手の刈稻
務軍るみでん勤に業でん喜はちた民農で護保の軍皇



チツクス 秋の南江 『獲 牧』
鄭二治澤大 兵等上軍陸 隊部松重 支中



隊部 中田 支中 閑小の地戦
ンサーンばれ見を姿の隊兵はちた供子の那支
るけつり賣をコマで来てつ寄とンサーン

高麗通報

昭和十一年三月二十一日 東京 高麗通報社 印刷



共同信託

本店 大東
支店 京阪
市 市 市
東 京 岡
區 市 岡
今 幸 天
橋 町 町
町 町

内閣印刷局印刷發行

判信紙通一A4 紙規正国はさき大の書本